

社会活動の履歴を、検証可能な形で保存 実証実験について

DID / VC を用いた簡易デジタル証明の試行

現状の課題

多くの社会活動が「思い出」として扱われている。

1. イベント参加や、地域活動、ボランティアなどの多くが、その場限りの記録で終わっている。
2. 仮に団体ごとに記録が残っていたとしても、第三者が団体に問い合わせてその内容を検証することは現実的ではない。
3. 時間経過や、組織・担当者の変更で記録が失われてしまう。

その結果、

社会活動が行われた事実が、検証、参照、評価されないまま消えている。

この構造をどう変えるか？

行為の記録を、後から再利用できる形で保存する。

1. 社会活動への参加を、「後から証明できる形」で記録する。
2. 特定の団体や担当者に依存しない形で、自分で記録を保持できるようにする。
3. 第三者が、いつでも記録の検証・参照ができる形式で残す。

どの様に実現するか？

VC (Verifiable Credential) を活用して記録、保存する

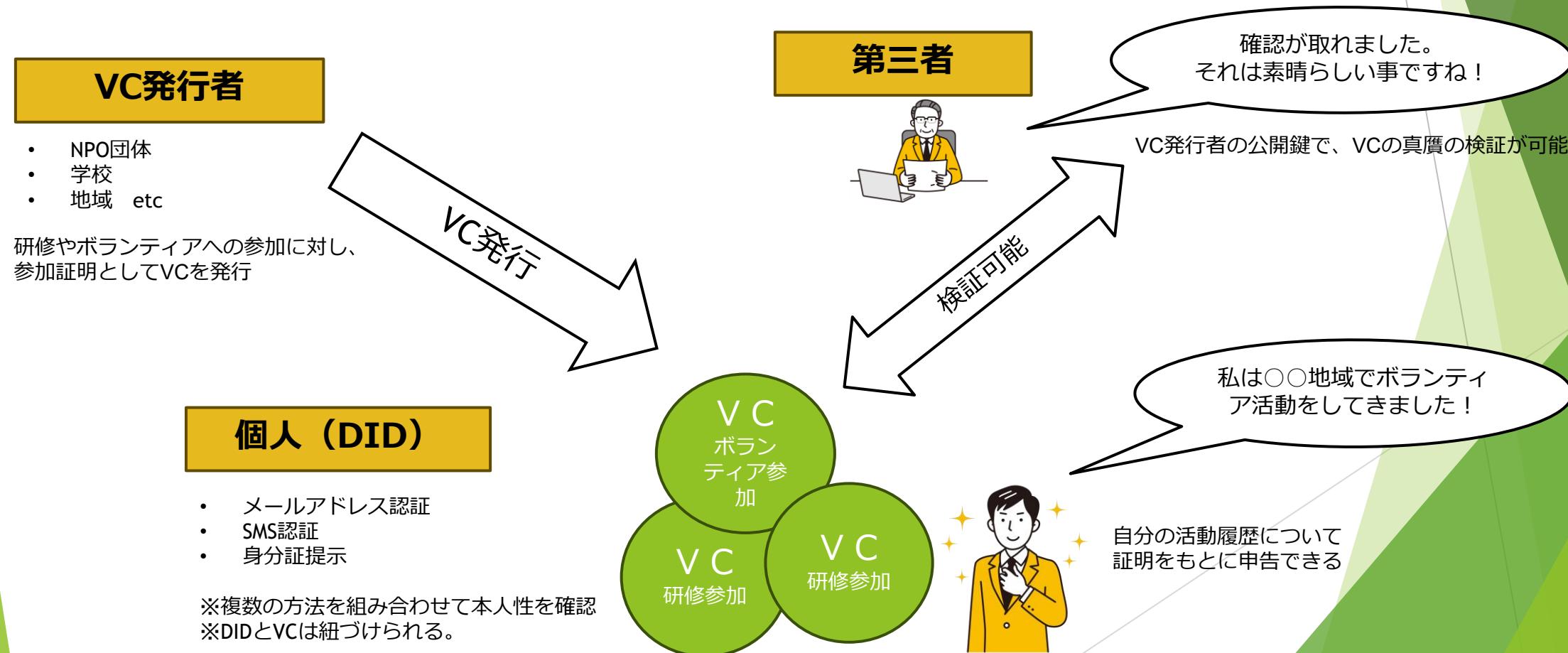
DID (Decentralized Identifier) = 個人を区別する識別子を併用する

DID/VCを活用して保存する

VC (Verifiable Credential) = 発行者について後から検証できる電子的な証明

※オープンバッジで使われているのと同様の技術

DID (Decentralized Identifier) = 本人が管理する、証明を受け取るための識別子



どう変わるのが、何が期待できるか？

小さな善意や努力が報われる世の中に！

– 行為の履歴が、判断材料として残る社会 –

活用の具体案（一例）

▼学生の社会活動についての履歴証明

- ①学生が地域の活動、ボランティア、課外研修に参加する。
- ②VCが本人に発行される
- ③学生は自分の持っているVCを学校に提出
- ④学校はVCの真正性を検証後、推薦や参考情報として活用

▼学生の災害ボランティアへの積極的参加

- ①災害ボランティアに参加、VCが本人に発行される
- ②講義を休んでも、VCを提示の上、別途補習を受ける事で欠席扱いにならない。

▼災害ボランティアへの支援

災害ボランティア → 集合場所への交通費など見えない経費は自腹。 参加VC提示で一定の支援を受けられる様に

▼スポーツの履歴証明

スポーツの記録や、継続の履歴を証明する。

▼表彰や、寄付・支援を受けるかの判断材料

- ・ 10年間海岸のごみ拾いボランティアに参加してくれた人 → 地域から表彰
- ・ 地域見守り活動への参加 → お礼に地域の温泉チケット
- ・ 企業CSR支援の判断材料に

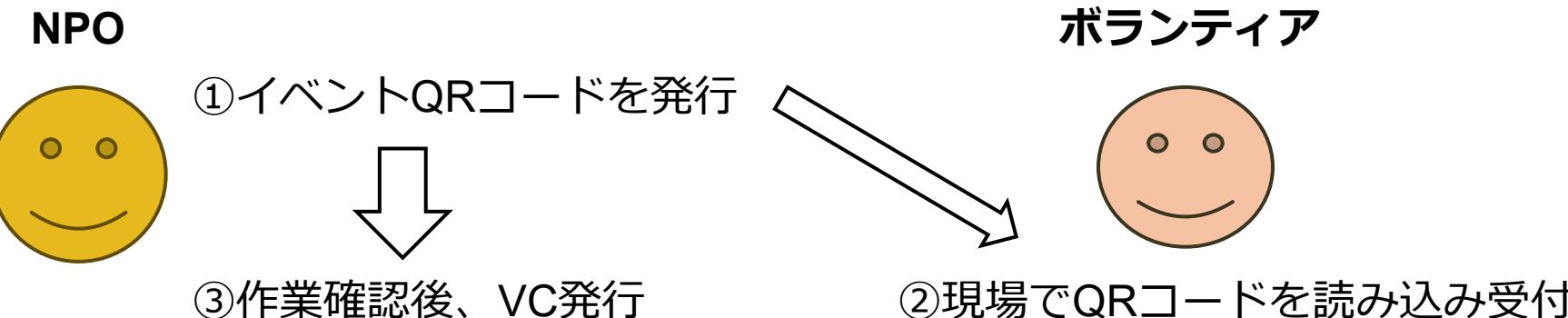
実現に向け、現在何をやっているか？

DID/VCの発行基盤の開発、整備を行っています。

管理ページから誰でも簡単にVCを発行できる基盤を作っています。

利用イメージ

例：NPOが地域の清掃ボランティアを主催



- 発行されたVCは、検証に必要な情報が発行基盤上に保持され検証者は専用ページから確認できます。
- ボランティアも自分が保有しているVCを専用ページから確認できます。

※ 実証実験では運用簡素化のため発行基盤側で管理を行いますが、本人が自ら保持できる形も想定しています。

実現に向け、現在何をやっているか？

どのようなものを実現するべきか。

【ユーザー視点】

- ・操作についての学習コストほぼゼロ。スマホの基本操作ができれば理解できるレベルに。
- ・QRコードが読めるスマホ（SIM有）を持っていれば、誰でも利用できる仕様に。

【VC発行者視点】

- ・管理ページより直感的にイベントQRコード、VCを発行できる。
- ・NPO団体側で秘密鍵を管理する必要のない仕組み。
- ・DX化されていない現場においては、VCの発行とともにDX化。業務軽減を目指す。

【検証者視点】

- ・直感的に操作できるUIから、登録等なく誰でも検証できる。
- ・プライバシーが保護された検証方法。（ゼロ知識証明も検討）

【ポイント】 現場に学習コストをかけない。その上で、DX化に寄与。

実証実験で何を行うか？

①QRコードをつかった受付 パターンA

NPO団体：イベントQRコードを事前発行

参加者：イベントQRコードをスマホで読み込んで受付

- ・ 受付にQRコードを配置。それを読み込み受付フォームより受付。
- ・ イベントQRコードは、管理画面より事前に発行。
- ・ 受付情報は管理画面より確認可能

② QRコードをつかった受付 パターンB

NPO団体：イベント申込受付時、申込者の情報も含めたQRコード発行

参加者：受付でQRコードを提示しチェックイン

※今回はパターンAの検証を行います。

実現実験で何を測定したいか？

①現場運用における導入、運用負担の評価

- ・全体像の理解についての説明コスト。
- ・管理画面について、UI/UX、機能についての意見。
- ・現在の受付オペレーションと乗り入れられるか否か。
- ・社会活動の履歴をVC発行、将来に活かす世界観についての受容度、理解度

②利用者側の操作負担、および心理的受容性

- ・受付時に個人情報入力に対する心理的抵抗
- ・どの項目に抵抗が出るか？
- ・項目数がどれくらいの数から抵抗が発生するか？
- ・受付用紙との差はあるか？
- ・社会活動の履歴をVC発行、将来に活かす世界観についての受容度、理解度

主に上記項目についての、年代・属性ごとに定量、定性調査